

横須賀水交會

【自衛艦隊司令官挨拶】

海将 大町 克士



早春の候 横須賀水交會の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より自衛艦隊の諸活動に対して、深いご理解と多大なるご支援を賜っており、心より感謝申し上げます。

昨年7月19日をもって第53代自衛艦隊司令官を拝命しました大町です。航空職域ということもあり、防衛大学校を卒業後、初の横須賀勤務となりました。約35年振りに横須賀市民になるとは、さすがに想像しておりま

せんでしたが、着任から7か月余りが過ぎ、横須賀生活にもすっかり馴染んできたところです。さて、現下の国際情勢に目を

転じますと、本稿執筆中の現在(2月初旬)、大きな変化が起きています。それは、欧州で3年以上続いたロシアによるウクライナ侵略の停戦協議の開始です。本稿が皆様のお手元に届く頃に、この協議がどのような形で決着しているのか。仮に、ロシアに有利な条件での停戦となれば、今後の国際的な安全保障環境に影響を与える可能性があります。

また、ハマスのイスラエル攻撃に端を發した紛争も停戦合意に従って、その履行が進んでいますが、イスラエルとイランとの関係を考えると、あまり楽観はできないのかもしれない。他方で、インド太平洋地域では、南シナ海、東シナ海における中国

発行 令和7年4月18日(金)
編集 横須賀水交會事務局

による力による一方的な現状変更の試みが進み、昨年は中露の共同巡航や共同飛行、中国による台湾に対する実戦的な演習の実施、北朝鮮による度重なるミサイル発射など、我が国を取り巻く安全保障環境は、依然として戦後最も複雑で厳しい状況が続いております。欧州、中東の紛争に一旦終止符が打たれれば、インド太平洋地域の諸情勢が世界の安全保障の中心課題としてよりクローズアップされてくるようにも思います。こうした中で、自衛艦隊が創設以来掲げてきた「精強・即応」の真価が今ほど問われている時代もないと考

えています。自衛隊では、統合作戦司令部が3月末に市ヶ谷に創設されます。自衛艦隊の目指す「精強・即応」とは、自らの強さのみならず、宇宙、サイバー領域を含めた統合、日米共同、同志国との連携を

一層深化させ、その総合力を最

(次頁へ)

横須賀水交會主要行事予定

令和7年7月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ(<http://y-suikokukai.daa.jp/>)より確認下さい。

- 1 馬門山海軍墓地墓前祭
 - (1) 期日 5月10日(土)
 - (2) 場所 馬門山海軍墓地
- 2 海軍の碑記念行事
 - (1) 期日 5月27日(火)
 - (2) 場所 横須賀ヴェルニー公園
- 3 第46回ゴルフコンペ
 - (1) 期日 5月30日(金)
 - (2) 場所 南総ヒルズ・カントリークラブ
- 4 7年度総会・講演会・懇親会
 - (1) 期日 6月5日(木)
 - (2) 場所 横須賀商工会議所
- 5 靖国神社月例参拝
 - (1) 期日 6月19日(木)
 - (2) 場所 靖国神社等
- 6 横須賀水交會防衛セミナー
 - (1) 期日 7月上旬
 - (2) 場所 後日連絡

大限に發揮できるようにしていただくことです。大國間競争の時代、これを戦間期という人もいます。自衛艦隊としては、戦いへの備えを周到に行うとともに、平素から引き続き紛争発生を抑止に寄与して参りたいと考えています。そのためにも、訓練精進にして、部隊の精強性と即応態勢の向上に一層努めたいと思います。

また、令和7年度の概算要求の内容をご覧になった方も多いと思いますが、海上自衛隊では防衛力の抜本的強化の柱でもあるスタンドオフ防衛力、無人アセット防衛力など、新たな装備品の導入に加え、水上艦隊（仮称）、情報作戦集団（仮称）など、組織の大きな改編も予定されています。自衛艦隊としても、新たな装備や組織がしっかりと機能するように、着実に準備を進めて参ります。

加えて昨年、自衛隊創設70周年の防衛大臣の談話にあったとおり、今では国民の9割が自衛隊を信頼しているといわれるのは、隊員一人ひとりが、いつい

なる時も「国民のための自衛隊」であるという戦後の「新しい伝統」を胸に、ひたむきに任務に励んできたからこそ、という観点からすれば、勤務における「誠実さ」は、引き続き大切と思っております。この「誠実さ」とともに「精強さ」を求めていく、まさに、今、海上自衛隊で、よりS2（精強 (Seikyo)・誠実 (Seijitsun)）検討が進む中、自衛艦隊は、引き続き「精強・即応」「誠実」を目標として、隊員一丸となって取り組んで参りますので、皆様には、自衛艦隊へ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、横須賀水交会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。

【特別寄稿】
硫黄島遺骨収集事業（前篇）
 前島 倫子
 （浜松つばさ会 会員）

硫黄島戦没者遺骨収集
 派遣への参加

昨年の11月26日（火）から12月12日（木）まで、令和6年度としては初の硫黄島遺骨収集派遣が行われました。硫黄島の遺骨収集派遣は、厚生労働省の指導監督の下、（一社）日本戦没者遺骨収集推進協会（以下「推進協会」）が各社員団体等の協力を得ながら実施をしている派遣事業です。

毎年一次〜四次、年4回の派遣が行われますが、令和6年度は硫黄島現地の渇水状況が続き、一次・二次は中止。三次派遣が初であり、そこへ参加をさせていただきました。



私は、叔祖父が伊号潜水艦で戦死しており、「伊呂波会」「水交会」には大変お世話になりました。また、学生のころから戦争経験者の体験談、戦跡や戦地をめぐる活動をしていた関係もあり、「つばさ会」を通して硫黄島遺骨収集派遣へ推薦をしていただき、今回、実際に参加が叶いました。賛助会員が参加するのはつばさ会としても初めてだったとのこと。関係者の皆様へ改めて御礼申し上げます。

派遣概要
 実施期間は17日間です。真つ



当な現役社会人としては、かなり長期間の有給休暇を会社へ提出することとなりました。社会復帰できるか不安な長さです。

「推進協会」5名を筆頭に、遺族会、硫黄島協会、JYMAなど各団体2〜6名、延べ34名が三次派遣団の構成です。これを3班に分け、1班10名前後で毎日作業を行います。ここに、法医人類学者である骨のスペシャリスト、通称「せんせい」、陸上自衛隊の「爆弾さん」2人、「科学さん」2人が、作業現場を巡回する体制です。

女性の参加者は8名。これは昨今見ないほど多い人数で、通常は2、3名程度とか。年齢層はどうしても高くなり、65歳以上の高齢者の方がほとんどです。中高年齢層は私ともう1名のみ。学生ボランティアの方が5名参加されていました。

1日の予定

簡単に説明すると「日の出日の入りに合わせて行動する」です。午前5時起床↓午後10時消

灯 分刻みの団体行動ですが、二日もすれば慣れてしまいました。「鹿島建設の売店」も平日の夕食後、30分程は利用することができます。飲み物や菓子類、日用品なども購入でき、離島としては充分な生活環境だったと思います。

【別紙1】

1日のタイムテーブル (遺骨収骨)

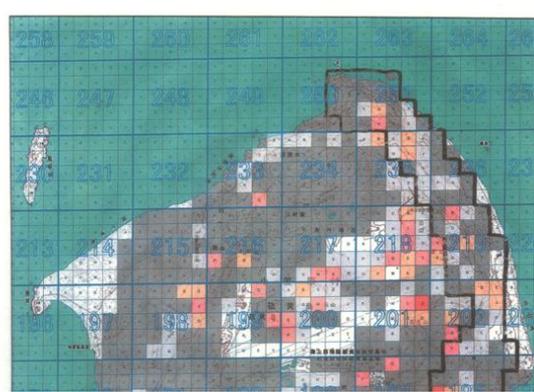
5:30	検閲カック(2Fラウンジ)
5:35	支那製生業(支那・朝日の朝陽地蔵はゴジ様で)
5:40~6:00	朝食(鹿島建設)
7:10	拜礼(保安部室)
7:15	支那製生業(作業に進む機好)
7:20	休養・朝礼
7:30	午勤作業 出発
7:40	作業開始にて作業開始
10:40	作業完了 出発
11:35	支那製生業(支那)
11:40~11:55	朝食(鹿島建設)
13:20	支那製生業(作業に進む機好)
13:30	午勤作業 出発
13:40	作業開始にて作業開始
15:30	作業完了 出発
15:40	休養
16:50	支那製生業(支那)
16:55~17:15	夕食(鹿島建設)
17:45	ラウンジ集合
17:50	収骨三・中心(団体代表者) -来日の作業内容の確認 -明日の作業内容の確認
22:00	消灯

遺骨収骨作業①

「199」-地表1」「182」-地表3」と呼ばれる地点をそれぞれの班にわかれて作業開始します。この数字による位置情報管理は、戦時中、米軍が硫黄島攻撃のため製作・使用した「グリッド」地図を転用しているからと、説明を受けました。

昭和40年、50年頃までは、硫黄島戦生還者の方の参加も多く、壕やある程度の地点特定による収容活動がされていたそうです

が、平成・令和となった今では、それももうできません。また、適当に硫黄島のあちこちを「手掘り」しても、効率が悪すぎます。現在では、「グリッド地図」に基づき鹿島建設が重機を使用し2〜5mほど地表面を掘り下げる「前作業」を実施。この「前作業」でご遺骨が見つかる、ブルーシートで「保護」され【遺骨収集派遣】が来るのを待つ、という具合です。

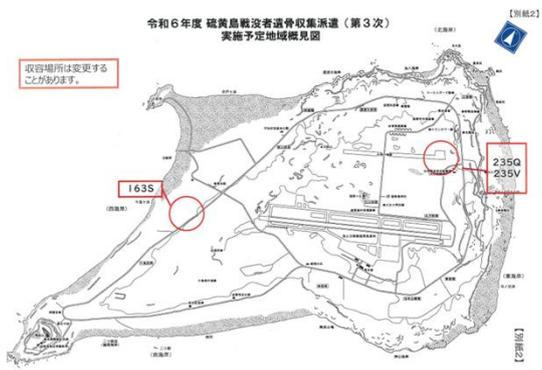


見晴らしの良い場所から、少し見渡すとブルーシートのかかった小山が4個5個といくつも見つけることができます。あま

りの多さに愕然とするばかりでした。

遺骨収骨作業②

第三次収集派遣では「壕」内の活動はありませんでした。数年前の地震の影響と火山活動・隆起が大きいため、安全確保が難しいという説明でしたが、「壕」内は紫外線などの影響が少ないため、劣化が進みやすい「地表」のご遺骨を優先したいという理由もあるようです。



1635-地表3

対空機銃陣地が、ほぼ、当時の状況のまま発見されました。地面(砂地)、玉石、コンクリー

ト、機銃台座、更に土丹岩に破壊された形跡がなく、米軍占領前に砂に覆われ、80年間そのままの土地だったのではないかと推測されます。



硫黄島ではかなり珍しくなった全身骨3柱、推定3柱、合計6柱を収容することができました。1柱は兵器による「高エネルギー骨折」が複数みられ、もう1柱は38歩兵銃を持った状態のように見えました。「全てのご遺骨に戦闘痕があるのがわかる。陣地を最期まで守った部隊だったのだろう」との「せんせい」の説明でした。

「推進協会」や「遺族会」の方

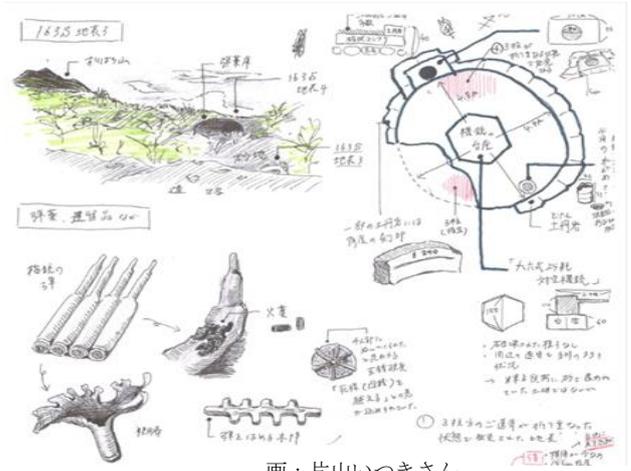
曰く、通常対空機銃陣地は3〜4カ所構成なのだそうです。この付近からは弾薬庫と今回発見された陣地1カ所しか発見されておらず、次回(四次派遣)以降は周辺へ調査範囲を広げる予定とのこと。更なる遺骨収容につながることを願います。



【横須賀散歩】

火 猿

(以下、次号に続く)



画：片山いつきさん

「咸臨丸」出港の碑
今度の散歩は、京急浦賀駅から海沿いに久里浜駅まで。浦賀港の西側、愛宕山に「咸臨丸出港の碑」があります。

ペリーの黒船四隻が浦賀沖に現れてから7年後の安政7/1860年、徳川幕府は、日米修好通商条約批准書交換の為、米

軍艦「ポーハタン号」で新見豊前守正興をワシントンへ送ることになりましたが、万一の場合に備え、軍艦奉行木村摂津守喜毅を指揮官に、勝麟太郎以下96名の日本人乗組員で運航する「咸臨丸」を従わせました。



「咸臨丸」は浦賀にて出港準備を整え、1月19日に出帆、39日間をかけ無事サンフランシスコに入港しました。それから百年後、日米修好通商記念行事の一環として、サンフランシスコにあるという「咸臨丸入港の碑」に向かい合うように、ここ愛宕山に「出港の碑」が建てられました。



なお、愛宕山には、五稜郭で戦死した浦賀奉行所与力中島三郎助の「招魂碑」と与謝野鉄幹夫妻の「文学碑」もあります。



【活動記録】

1 第49次派遣海賊対処行動
水上部隊護衛艦「むらさめ」
出国行事

令和6年10月5日(土) 横須賀地方総監部厚生センター体育館において、派遣海賊対処行動に従事する護衛艦「むらさめ」(第49次派遣海賊対処行動水上部隊指揮官 2等海佐 早川正紘)の出国行事が行われ、松土士会長以下26名の会員が参列しました。



総勢600人を超えるご家族、

部隊指揮官、横須賀市長他の来賓及び関係者等が見守る中、護衛艦「むらさめ」乗組員及び海上保安庁からの派遣隊員が入場し、行事が開始されました。

大町克士 自衛艦隊司令官が、「派遣海賊対処行動も15年目となり、ソマリア沖・アデン湾の自由な航行への貢献は、国内外から高い評価を得ている。海上保安庁からの派遣隊員と一体となって任務を完遂して欲しい」旨の訓示と、ご家族への感謝が述べられました。

そして、彼末浩明 海上保安監からの挨拶の後、早川艦長が「チーム一丸となり安全な航行に努め、アデン湾に向け、本日、出航します。」と力強く報告し、来賓、家族の拍手の中、総員が乗艦のため会場を後にしました。

時折霧雨が降る曇天下、「むらさめ」の曳き出しが始まると、ご家族をはじめとする行事参加者の皆様は、盛んに手を振って出航を見送りました。

派遣部隊のご安航と任務完遂を心から願っております。



(山岡 鉄司 幹事 記)

2 第3回横須賀水交会
防衛講座

令和6年10月26日(土)、ヴェルク横須賀第3研修室(横須賀市日の出町)において「第4回横須賀水交会防衛講座」が開催され、松下会長、中西幹事長をはじめ約20名の会員が参加しました。今回の講師は、元海上自衛隊開発隊群司令 山岡鉄司 元海将補(防衛大学校第31期生)で、装備幹部として数多くの研究開

発関連配置に就き、業務に精通している講師から「海上自衛隊の研究開発」と題して講話していただきました。

初めに、防衛装備庁を中心とした防衛省における研究開発体制について解説した後、初任地である「くらま」砲術士での装備改善支援にはじまり、装備実験隊、艦艇開発隊、開発隊群などの勤務で携わった研究開発業務についてエピソードを交えながら説明し、海上自衛隊における研究開発の流れを分かりやすく紹介されました。



また、講話の後半には、AIの進化がもたらす、いわゆる第4

次産業革命の趨勢に対応しどのような研究開発体制を構築すべきか、また、研究開発業務を担う装備幹部に期待される資質とは何かについて、アットホームな雰囲気の中で参加者との討議を交えながら個人的見解を述べられました。



講話終了後の質疑応答では、ロシアによるウクライナ侵攻や中国の軍備増強などの急激な情勢の変化による研究開発への影響や、イージス・システム搭載艦の建造、スタンド・オフ・ミサイルの早期取得等が決定されたこ

とによる調達要求元の業務量増大への影響に関する現実的な質問が相次ぎ、参加者の関心の高さを伺うことができました。

防衛講座終了後は、講師が防衛大学校以来なじみとしている横須賀中央駅前の某居酒屋に移動し、更に懇談を深めました。

(田村 久幸 幹事 記)

3 部隊研修

令和6年10月29日(火)・30日(水)の両日、横須賀水交會部隊研修(有志会員研修)が、横須賀潜水艦教育訓練分遣隊の協力を得て実施されました。

研修内容は、部隊の概要説明、深海救難艇の運用説明、訓練展示及び体験搭乗と盛りだくさんで、2日間に亘り合計42名の会員が研修しました。

研修の冒頭に分遣隊長から部隊の任務概要等をご説明いただき、その後、深海救難艇(DSRV)による救出説明及び班員による

訓練展示という流れで研修は進められました。

会員にとつては、なかなかじみの薄い内容で、理解するのが難しいと危惧していましたが、訓練班長の時折ユーモアを交えたトークで、わかりやすく説明していただきました。

宇宙飛行士の若田光一さんが体験にいられた際に5分ほどのブリーフィングだけで、訓練班長も舌を巻く程の運転技量を示されたことやアニメや特撮などで有名な某監督が訪問されたときには若い隊員が興奮していたことなど、関心を引くエピソードを随所でお話しいただくなど参加者がなじみやすいように工夫してもらいました。

訓練装置を用いた運転体験では、ブリーフィングを聞いて、「ちょっと怖いからやめておきます」と言う会員もいましたが、海上自衛隊横須賀地区唯一の動くアトラクション(?)ということもあり、全員操縦席に乗っていただきました。

体験途中、想定外のダウン角度までかけてしまうというハプニングもありましたが、参加者一同無事に帰還することができました。

参加者からは、「海上自衛隊は護衛艦や潜水艦などの正面装備が注目を集めることが多いが、DSRVのように一般の人の目に触れる機会がなくても、正面部隊を支えている方がいてこそ、安心して最前線の部隊の皆さんが活躍できると感じた」といった感想もあり、一様にすばらしい体験ができて本当によかったという意見が多く聞かれました。今後とも、正面部隊だけでなく、普段見ることができない自衛隊の側面を見ていただき、隊員募集につながる研修を計画していきたいと思えます。

今回の部隊研修は、業務多忙に関わらず潜水艦教育訓練分遣隊の御配慮により、実現したものであり、ご尽力いただいた関係各位に改めて深く感謝いたします。

(乳井 三治 幹事 記)

4 自衛隊記念日祝賀会

令和6年11月2日(土)、横須賀地方総監部厚生センターにおいて自衛隊記念日祝賀会が開催されました。

本会は、海上自衛隊横須賀地方隊、横須賀防衛協会及び横須賀水交會が共催し、地域の首長、国・地方議員、横須賀地方隊に係する陸海空自衛隊・在日米海軍の部隊指揮官・先任伍長、関係諸団体・関連会社等を招いて自衛隊記念日を交歓するとともに、自衛隊を激励し、併せて、各団体会員相互の親睦を図ることを目的に毎年実施しているものです。

当日は、台風から変わった温帯低気圧の影響であいにくの雨天にもかかわらず、300名を超える関係者が参加されていました。

来賓として、小泉進次郎 衆議院議員、三浦信祐 衆議院議員、水野素子 参議院議員、田中茂 横須賀市副市長、大野忠

之 横須賀市議会議長ほか多数の県議会や市議会の方々、そして、東北方面総監、航空総隊司令官、在日米海軍司令官など日米関係や統合の深化が見て取れる要職にある方々が参加されました。



共催団体を代表し真殿知彦横須賀地方総監が、40年前を振り返り自らの防衛大学校学生当時の横須賀におけるエピソードで会場を湧かせた後、防衛生産基盤強化への取り組みや、自衛官募集に向けた理解と支援を含めた挨拶がありました。

そして、関係諸団体を代表し

て平松廣司 横須賀防衛協会会長からの挨拶、来賓紹介の後、恒例の鏡開きが実施され、松下泰士 横須賀水交會会長の音頭による乾杯により懇談へと進んでいきました。

会場を埋め尽くす出席者による挨拶、名刺交換がいたるところで行われ、会場内のあちらこちらで和気あいあいと懇談する姿が見受けられました。

本祝賀会で横須賀水交會の有志数名が、受付業務等、円滑な会の運営を支援しました。

(山岡 鉄司 幹事 記)

5 第45回横須賀水交會主催

ゴルフコンペ

令和6年11月8日(金)、寒暖の差が例年より深まる秋、当日は早朝から気温10度と厳しい冷え込みでしたが、絶好のゴルフ日和の晴天に恵まれ、前回同様千葉房総半島の南総ヒルズカントリークラブにて45回目の横須賀水交會主催ゴルフコンペが開

催されました。

今回は前回に比し約半数の15名の参加でしたが、スタート時には適度の日差しに恵まれ気温も回復、まさに秋のゴルフ日和の天候に恵まれ終始和気あいあいと親睦を深めることができました。

プレイは、東、西それぞれのコースに2組ずつで、各組8時45分にスタート。スコアを争うプレイとは別に設定された各組ドラコン2ホール、ニアピン4ホールの争奪戦で特に際立ったのは熊谷博之氏がニアピン2個、ドラコン1個、大津雅紀氏がニアピン1個、ドラコン1個とそれぞれ大活躍でした。

最終的なダブルプリア方式による成績は、川上雅永氏が、グロス98、ハンデキャップ25・2、ネット72・8で初優勝、2位は会見裕氏(94、18・4、75・6)が、そして3位には松本幸一郎氏(98、21・6、76・4)、ベストグロス賞は、大津雅紀氏で83という結果でした。



優勝者コメントでは、「天候、メンバー、ハンデに恵まれ、4回目の参加で優勝することができました。前回の優勝がグロス98だったので、ホールアウト後に「もしかしたら…」と書いていたら、本当に優勝してしまい驚きました。次回は連覇目指してがんばります。」とのコメントを頂きました。

今回もプレイ終了後のパーティーも含め、コンペは終始和気あいあいと推移し親睦を深め盛會に終わることができました。今後とも会員の親睦を目的とし、水交会会員のみならず、陸海

空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交会の活動に理解を深めていただければと考えております。

今回の開催は、6月頃を予定しております。奮ってのご参加よろしく願います。

(迫 幸一郎 幹事 記)

6 練習艦隊帰国行事

令和6年11月11日(月)、前日まで降っていた雨も上がり、薄曇りの天気の中、令和6年度遠洋練習航海部隊(練習艦隊司令官 西山高広 海将補 以下実習幹部192名を含む551名)の帰国行事が横監厚生センターで行われ、横須賀水交会からは松下会長以下、22名が参加しました。

帰国行事には、海幕副長をはじめとする各級指揮官のほか、トルコ共和国、セネガル共和国、南アフリカ共和国、メキシコ合衆国及びドイツ連邦共和国の各駐日大使等、横須賀市長、神奈川

県議会議員ら多数の来賓と隊員家族、関係諸団体を含め400名近い方々が参加されました。行事は西山練習艦隊司令官の帰国報告に引き続き、八木海幕副長が海幕長の訓示を代読しました。

訓示では「練習艦隊は各訪問国との友好親善に努め、特にトルコとは外交関係樹立100周年を迎えた記念すべき年に両国の絆を深め、国際親善に寄与することができた」と述べ、また「将来の海上自衛隊を背負う誇りと自信を持ち誠実に勤務してもらいたい」と激励されました。



7 砕氷艦「しらせ」出国行事

(山岡 鉄司 幹事 記)

「うくしま」の前日に起きた掃海艇「うくしま」の事故にも触れ、「事に臨んでは危険を顧みず、身をもつて責務の完遂に務め、もつて国民の負託にこたえます」という誓いの言葉のとおり、乗員は最後まで任務を全うした」と述べられました。最後に来賓代表として、穂坂泰 外務大臣政務官から挨拶がありました。式典終了後、実習幹部は再び「かしま」に乗艦すると、「行進曲軍艦」に合わせて乗員らに見送られながら歩き出し、続いて音楽隊によるメドレー「また逢う日まで」「アニメ ワンピースのテーマ曲」「プロフェッショナル 仕事の流儀の主題歌」が奏でられる中、司令官・各艦艦長らと握手を交わした後、「かしま」を退艦し、岸壁に整列して帽振れを行いました。

初任幹部諸官の活躍を心より祈念します。

令和6年11月20日(水)、砕氷艦「しらせ」(艦長 齋藤一城 1等海佐)は、乗員178名を乗せ、横須賀逸見岸壁を出港、第66次南極地域観測協力のための154日間の航海に出ました。

この日の横須賀は、気温が低く、小雨の降る肌寒い天気にもかかわらず、会場となった横監厚生センターには乗員家族、しらせ関係協力団体・企業、来賓等あわせて約600名もの多くの人が集まり、横須賀水交會からは、松下会長以下17名の会員が参加しました。



出国行事は午前11時に始まり、初めに吉田統幕長の訓示を高石統幕総務部長が代読されました。

引き続き齋藤海幕長の壮行の辞となりましたが、その冒頭、11月10日に発生した掃海艇「うくしま」の火災についてのお詫びと関係各部への感謝の言葉がありました。壮行の辞では、本活動の歴史と意義及び乗員家族への感謝の言葉が述べられ、「来年4月には任務を完遂し、総員が元気に帰国することを祈念する」と隊員を激励されました。

次に来賓代表として、野木国立極地研究所長から挨拶があり、最後に齋藤艦長の「砕氷艦しらせ南極へ向け出港します」との力強い報告で出国行事は終わりました。

「しらせ」は、12月5日から9日まで、オーストラリアのフリーマントルに寄港し、第66次観測隊員が乗艦します。フリーマントル出港後は各種観測支援を実施しつつ、年明け1月2日

8 幹事会・懇親会開催

(川上 雅永 幹事 記)

「しらせ」乗員ならびに観測隊の皆さまが健康に留意され、元気な姿で無事に帰国されることをお祈りします。

に昭和基地へ接岸する予定です。昭和基地では野外観測や基地設営支援を実施し、復路は4月3日に再びフリーマントルへ入港し、観測隊員が退艦した後、4月22日に横須賀基地へ入港する予定です。



令和6年12月9日(月)に横須賀市立総合福祉会館で幹事会が行われ、約40名が参加しました。そして、次の各議題について、発表・討議され、それぞれ承認されました。

- 1 新役員の紹介
- 2 実施行事の結果
- 3 実施予定の行事
- 4 令和7年度総会の実施会場は継続検討
- 5 横須賀防衛講座の方向性
- 6 隊員留守家族支援の方向性

会議終了後、場所を「メルキユールホテル横須賀」の眺めの良い20階に移し、忘年会を兼ねた横須賀水交會幹事会懇親会が開催されました。

来賓として祝辞をいただいた中野愛一郎 横須賀市市長特命参与、田中洋次郎 県議会議員、大野忠之 横須賀市議会議長、また、代理出席で小泉進次郎 衆議院議員代理 渡邊周平様、佐藤正久 衆議院議員代理 橋谷田洋介様、そして、海上自衛隊からは、金刺基幸 横須賀

賀地方総監部幕僚長を始め、横須賀地方総監部管理部長、総務課長及び横須賀上曹会会長の出席を得ました。

今回は、約50名の参加者がゆつくりと歓談できるように着席形式が採用され、眞鍋企画常務幹事の司会の下、懇親会は始まりました。松下会長の挨拶では、募集難といわれる昨今の状況に鑑み、水交會を募集・広報に活用する提言もあり、意欲的な活動を推進していく力強い言葉がありました。



その後、来賓を代表し、中野特命参与の代読で上地克明 横

須賀市長からの「日頃からの海上自衛隊に対する激励に謝意を示すとともに、横須賀市としても海上自衛隊のためにできる限りの支援をしていく所存です」というご祝辞を頂きました。

引き続き、金刺横監幕僚長から、横須賀水交會からの各支援のお礼と、部隊改編に向けて様々な準備を進めている現状の紹介がありました。

今回は掃海艇「うくしま」火災事故を受け、乾杯は実施せずそのまま懇談に入りました。



おいしい料理に舌鼓を打ちながら、今年1年の出来事を振り

返り、また、来年の抱負を胸に共に杯を交わし、和気あいあいの内に時は過ぎ、最後は楽しく集合写真を撮って、名残惜しくも閉会となりました。

(山岡 鉄司 幹事 記)

9 横須賀教育隊修業式

において激励賞を贈呈

令和6年12月19日(木)横須賀教育隊での修業式に参列し、松下会長が激励賞を授与しました。

今年一番の冷え込みの中、式典が実施され、横須賀水交會から第141期初任海曹課程(71名)、成績優秀者1名に、横須賀防衛協会から第17期海曹予定者課程(197名)、成績優秀者1名に表彰状及び記念品が贈呈されました。

大賀教育隊司令は「修業生の日々の研鑽に敬意を表するとともに教育期間中の目標設定や心構えに関する所見作成は自己研鑽の第一歩であり、引き続き自

己研鑽を重ね、部隊の中核となるよう。また、今後は崇高な職務を遂行する仲間として笑顔で再開することを楽しみにしている。」との式辞がありました。

厳しい募集環境の中、教育隊では入校者数の低下から、その現実を実感しているとのことのお話がありました。横須賀水交會としても激励賞はもとより、募集に寄与することを念頭に置いた活動に邁進してまいります。

今回、横須賀水交會からは、以下の方が表彰されました。

第141期初任海曹課程

2等海曹 末永 芽生

(すえながめい)



(吉岡 俊一 幹事 記)

10 横須賀教育隊修業式

において激励賞を贈呈

令和7年2月17日(月) 横須賀教育隊での修業式に参列し激励賞を授与しました。

第385期練習員課程(32

名)、第72期練習員(女性)課程(7名)の修業式が実施され、各課程1名に表彰状及び記念品が贈呈されました。

なお、会長所用のため、道満副会長により授与されました。

式典において、大賀教育隊司令は、「日々の努力と同期の協力

で修業を迎えたことに敬意を表するとともに部隊において信頼を得るため、失敗しても謙虚で素直に失敗を認め同じことを繰り返すことなく元気に勤務にし、今後は崇高な職務を遂行する仲間として笑顔で再会することを楽しみにしている。」との式辞がありました。

真殿総監からは「部隊の若さと活力の源として活躍すると

もに本課程の同期は、真の仲間、大きな財産であり、同期と共に困難を乗り越え絆を大切に、令和の海上自衛隊の中核として国防に携わる気概をもって実直に任務に邁進せよ。」との訓示がありました。



また、来賓として上地市長代理田中副市長から「戦後80年を迎えても世界中で紛争が絶えず、日本周辺では中国の軍備増強や北朝鮮の核ミサイル開発等

安全保障環境は一層厳しさを増している中、警戒監視等即応態勢を維持する自衛隊のおかげで平和が維持され、災害に対する

迅速な救助活動、生活支援に国民は大きな期待をしており、これらの活動に活躍されること願っております。横須賀市は戦前の海軍からともに歩んできた街であり、第2の故郷として寄港等で立ち寄りの際には横須賀の街を楽しんでください」との市長からのメッセージが伝えられました。

式典終了後、2月とは思えない暖かな日を浴び、整齊と行進する修業生を見送りました。

今回、横須賀水交會からは、以下の方が表彰されました。

第385期練習員課程

2等海士 小田邊 翔吾

(おたべ しょうご)



第72期練習員(女性)課程

2等海士 薦田 夏希
(こもだ なつき)



(吉岡 俊一 幹事 記)

【お知らせ】

寄付のお知らせ

寄付芳名(敬称略)

白川 久美 10,000円

横須賀水交会に対するご芳志
まことに有難うございました。

(一瀬 良文 事務局長 記)

横須賀水交会 全会員用

メーリングストについて

「メールによる 会員の皆様
への行事等のご案内」を行って
います。既に、多くの会員の方に
は登録していただいています。が、
最近の水交会活動の活性化に伴
い、メールでの連絡を更に有効
活用しています。特に、体験航海
や艦艇の出入港を伴う行事では、
当日の気候により時間や場所が
変更になった場合、横須賀水交
会からタイムリーにご連絡させ
ていただけますし、また、お問い
合わせいただくこともできます。

つきましては、メーリングリ
ストへの登録を希望される方は
次の要領で「登録」をお願い
いたします。

① 登録用アドレス

memberlist_regist@

y-suikoukai.sakura.ne.jp

② 登録内容

(例)

(1) 氏名・海尾 護

(2) 会員番号・0174183

(3) メールアドレス

uniomamor@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につ

き1アドレスとさせていただきます
ます。何かご不明な点がござい
ましたら、登録アドレスへご一
報ください。以上、よろしくお
願いたします。

(檜森 晃治 幹事 記)

訃報

次の会員の方が逝去されまし
た。(敬称略)

令和6年10月〜令和7年2月

令和6年

古内 慧 (9月15日)

佐藤 雅 (10日9日)

丸山 敏視 (10日9日)

吉川 圭祐 (10日19日)

日原 哲兵 (12月25日)

(一瀬 良文 事務局長 記)

新(編)入会員について

次の方々が横須賀水交会に新
たに入会(編入)されました。

(敬称略)

令和6年10月〜令和7年2月

入会

澤田 龍哉(有志)

大西 未来(有志)

川口 幸一(有志)

狩俣 由美子(有志)

編入

堂下 哲郎(82幹候)

(桂 眞彦 幹事 記)

【編集後記】

浜松つばさ会の会員である前
島様のご厚意により、令和6年
度第三次硫黄島遺骨収集事業に
参加された体験談を前・後編に
分けて特別寄稿として紹介しま
す。研修等で硫黄島を訪れた方
もいらつしやると思いますが、
戦没者遺骨収集事業の実態を知
り、帰還に向けての活動を後押
しする一助になればと思います。
(田村 久幸 幹事 記)

